Ⅶ　ヒアリング調査

VII. ヒアリング調査

1.ヒアリング結果
＜この２～３年の子どもの発達支援の課題・困難について＞

① 支援や手助けが必要な子どもの状態像の変化

- 小学校では支援や手助けが必要な子どもが増えたとは感じていない。一方で、中学校では、グレーゾーンの子どもや、家庭に課題のある子どもが見受けられるようになっている。
- 町田の丘学園では、不登校の子どもが増えていると感じている。学校だけが居場所ではないという考えが社会に広まっていることや「生きにくさ」を感じている子どもがいること等が原因にあると考えている。
- 医療現場では、対面での直接的なコミュニケーションの機会が減っているため、子どものコミュニケーション能力が育ちにくくなっていると感じている。さらには生活習慣の乱れ等で１歳児からも二次的な発達障がいの症状を呈する子どもが見受けられるようになった。

② 保護者の意識や行動の変化

- 発達障がいについて自ら積極的に情報収集を行う保護者と、そうした行動に移せない保護者がいる。行動に移せない保護者には、発達の遅れや障がいを保護者が受容できない場合や、相談機関を紹介しても相談しない場合が見受けられる。
- 発達の遅れや障がいを受容できない保護者、相談機関を紹介しても相談しない保護者は全体的な数としては少なくなってきているが、そのような保護者は孤立しやすい傾向がある。
- 忙しさや孤立感から保護者が専門機関に相談できないことがある。その結果、保護者の不安が大きくなり、子どもに悪影響を及ぼす場合がある。
- 以前よりも保護者にとってのロールモデルを持つことが難しくなっていると小学校の教員は感じている。
- 医療現場では、家庭の経済状況により、療育の利用状況や保護者の情報の入手状況に格差があると感じている。

③ コロナ禍での生活・支援による今後の子ども・保護者への影響

- コロナ禍において、保育園・幼稚園・学校等とのつながりは維持できているものの、保護者同士のつながりが希薄化し、周囲に頼ることができる保護者とできない保護者に分かれている。
- コロナ禍の影響で医療機関の利用制限があり、必要な療育が以前より受けられなくなっていると保護者は感じている。
- コロナ禍で、就労体験等のプログラムが減少し、学校外での経験が不足し、進路を決めることが難しくなると町田の丘学園の教員は感じている。

2.ヒアリング結果＜発達支援を支える支援者について＞

① 市内の支援・サービスの過不足に関すること

【障がい児福祉サービス全般に関して】

- 支援・サービスの質の担保が望まれている。
- 事業所によっては新規受け入れを停止しているところもある。
- 町田市役所のホームページが分かりにくい。どのようなサービスがあるのか、どのようにつながるのか、保護者や制度を知らない支援者は分かりにくいと感じている。

【医療機関に関する支援・サービスの過不足】

- 町田市の心療内科や発達支援に関するクリニックは予約待ちが長く、クリニックの数も不足していると、小学校の教員は感じている。
- 町田市内に発達障がいを診察することができる専門のクリニックがない。近隣にあると安心すると、保護者や町田の丘学園の教員は感じている。

【保護者が感じる支援・サービスの過不足】

- 移動支援に関して、人員不足で利用できないことがあると感じている。
- 放課後等デイサービスの数は増えているが、空きがなく利用できないことがあると感じている。
- 様々な事業所があり、各家庭でもニーズが異なるため、事業所を選ぶことが難しいと感じている。
- 成人後の障害者福祉サービスにおいて、日中一時支援事業が実施されていないことを課題に感じている。
- 短期入所のサービスを提供できる施設の増加が望まれている。

【保育園・幼稚園が感じる支援・サービスの過不足】

- 障がい児に対してどのような対応をすればよいか、職員が気軽に相談できる場や機会や職員へのスーパーバイズが不足している。
- 保護者が一時的に仕事や育児から解放されて、ゆっくりとした時間を過ごせるような日中一時預かりが不足している。
- 相談の窓口がよくわかっていない保護者が多いと幼稚園は感じている。

【小学校・中学校が感じる支援・サービスの過不足】

- 特別支援学級が不足している。
- 放課後等デイサービス事業所の数が不足していると小学校は感じている。

【町田の丘学園が感じる支援・サービスの過不足】

- 放課後等デイサービス事業所の数が増えてきており、不足しているとあまり感じていないが、日数・曜日制限は行われていると感じている。
- 短期入所のサービスを提供できる施設の増加が町田の丘学園の教員から望まれている。

② 人材の確保・定着に関する課題

- 保育園・幼稚園や小中学校における支援体制の状況については、「支援体制はあるものの、人的余裕はない。現場は目の前の対応を行うだけで手一杯である」「相談を受け、療育につなぐまでの人材が不足している」と各機関の管理者は感じている。
- ソーシャルワーカー等の専門職を保育園・幼稚園、小中学校に配置し、各機関を定期的に巡回することが必要と感じていると学校や医療機関は感じている。
- 子ども発達センター等町田市の相談機関に医療機関と保育園・幼稚園や小中学校、サービス事業所との間の連携をサポートする発達支援専門のコーディネーターを配置してほしいと幼稚園協会・医療機関は感じている。
- 特別支援学級の支援員の配置。配置人数が圧倒的に足りていないと小学校は感じている。

③ 在職職員や提供する療育の質の向上に向けた取組・課題

【全般】

- 保育園・幼稚園や小中学校と医療機関、サービス事業所間の連携が適切に行われることが望まれている。

【保育園・幼稚園において】

- 卒園後を含め、より広い視点で障がい児の人生を考えられるように職員への研修の充実が必要だと保育園は感じている。
- 福祉サービス事業所によってサービスの質にばらつきがあるため、情報交換や研修を実施することによって、サービスの標準化が図れると保育園は感じている。

【小学校・中学校において】

- 教員のキャリアアップのために特別支援教育を経験してほしいが、現場の校長に特別支援学級に関する人事権がないため、特別支援教育を担当する準備ができていない教員が担当になることがある。
- 小学校では課題がないと思われていた生徒が、中学校では支援が必要だと感じられる場合があり、小学校と中学校で療育の必要性に関する判断基準の違いが生じることがあると、中学校は感じている。
- 特別支援教育に関わる支援員の数が減少し、療育の質が低下しているように感じている。

④ 支援者間での情報共有・連携の取組・課題

【保護者からの意見】

- 保護者は、どこの部署に相談に行っても市側で情報の共有を行ってくれる、自身が多くの部署を回らなくて済む体制整備を希望している。

【保育園・幼稚園において】

- 児童発達支援事業所などの療育施設に早期から通う子どもが増えて、保育園・幼稚園・小学校は障がいの状況が知ることができ、保育園・幼稚園と小学校の間で情報共有や連携が以前より増えたと感じている。保護者も学校も発達の遅れや障がいに関する情報等を得る機会が増えたため、早期に通うのだと幼稚園では感じている。
- 発達支援に関するスキルや情報の幼稚園間での共有、個別ケースの深掘りは他の園とできておらず、実施は難しい。
- 個人情報保護の観点で、法人間での情報共有が難しい。

- サービス事業所への情報提供は、保護者を通じて実施している。
- 頻度は多くないが、町田市の「マイ保育園」制度が、保護者が情報を入手する窓口や相談につながるきっかけとなることがあると感じている。

【小学校・中学校において】

- 小学校では、支援者間の情報共有として、必要に応じて個別に連絡を取り合うなどの連携をしている。サービス事業所に対しては、主に送迎時に情報共有を行っている。
- 中学校では、サービス事業所の職員に口頭で学校での様子を共有することはあるが、支援者間の情報共有の頻度は少なく、サービス事業所に対して学校側から積極的に情報発信できない状況である。

【町田の丘学園において】

- コロナ禍前までは、町田市内の公立小中学校の特別支援学級の教員が町田の丘学園のワークショップに参加する等の交流はあった。
- サービス事業所とは、日常における情報交換・困難事例における支援会議の設定や進路決定後の移行支援会議・アフターケアの実施における情報交換等で情報共有を行っている。これまでも情報共有は充実しており、頻度や量は変わっていない。

【医療機関において】

- 町田市民病院と町田の丘学園の関わり・連携について、特に問題はないと感じている。
- 連携を取るために保護者も含めた支援者間で、一定程度統一された問診票や評価ツールが必要と感じている。判断や情報の捉え方に差があるため、評価基準を標準化できると良いと考えている。
- 教育委員会や教育センターと、発達支援の関係機関との間で連携や情報共有に関して大きな課題感があると医療機関は感じている。

3.ヒアリング結果＜地域共生に向けた地域の人々との連携について＞

① 障がいへの理解促進に必要な取組

【町田市に対する要望】

- 町田市に差別解消に向けた、企業への研修等具体的で積極的な取組を実施してほしいという意見があった。
- 小学校・中学校・高等学校・大学・各企業でそれぞれ特別支援学校との直接的な交流や啓発活動を実施してほしいという意見があった。
- 乳幼児健診の後に保護者への丁寧な支援・助言・選択肢の提示などを実施してほしいという意見があった。

【保護者からの意見】

- 障がい児の保護者からの情報発信は、理解促進の上効果的であると、保護者自身が感じている。「自分の子どものことを知ってほしい」という考えを持つ保護者がいた。
- 周囲の人からされると嬉しいことや悲しいことを発信できるとよい。
- 同じ境遇を抱えている・抱えていた保護者から話を聞くことは保護者同士の交流につながると思っている。
- 特別支援学級の教員向けの研修を保護者も受講できるようになってほしい。
- 町田の丘学園では「親亡き後」等様々なテーマで、保護者に対する研修会を実施しており、保護者からも参加して有意義であったという意見があった。

【保育園・幼稚園からの意見】

- 受け入れ体制を整えた上で全ての障がい児が通園できることで、他の児童も幼少期から障がいに触れることができ、理解促進につながると思っている。

【小学校・中学校からの意見】

- 小中学校の通常学級の保護者に対して、障がいのある人や障がいに対する理解を深めていく取組を実施したいという意見があった。
- バスケットボールやサッカーなどの合同練習によるスポーツ交流や障がい者スポーツ体験を特別支援学校とともに実施したいという意見があった。

② 障がい児が地域で生活するために必要なこと

- 障がい児が就労等においてやりたいと思ったことが実現できる社会になると良いと感じる。
- 誰もが安心して受診や相談ができる病院、療育機関が充実してほしい。身近な所で相談ができると安心できる。
- 就労移行支援事業所や障がい児が就職できる企業などの増加が必要だと思う。
- 町田市内の全ての小中学校に「知的障がい」「自閉症・情緒障がい」の特別支援学級を設置することで地域とも交流が多くなると思う。
- バリアフリーの促進。階段はあってもスロープが無く、入れないことがある。
- 町田市は自然が多く緑に多く触れる機会があるが、歩道や路地において舗装に段差ができ亀裂が入っているところを多々見かける。車いす・足腰の不自由な障がい児にとって安全に気軽に出歩けるようになってほしい。

- 小児期から療育を受けている場合の事務手続きにおいて、専用の窓口を設置することで、スムーズな障がい児福祉サービスから障がい者サービスへの移行ができる。

4.ヒアリング結果
＜支援や手助けの必要な子どもの意見を聴くために必要な行動・姿勢＞

① 市役所や行政に必要なこと

- 市役所職員も障がい児と交流する・話をする機会が大事である。
- 支援者から、支援が必要な子どもの自立に必要なことを聞き取ることが大事である。
- 相談窓口や相談の機会を増やしてほしい。
- ワンストップサービス。同じ申請内容を何度も記入しなければならないなど時間的にも心理的にも負担になることがあるので軽減できるとよい。
- 支援が必要な児童の実態や人数等の把握。

② 教育・保育施設に必要なこと

- 障がい特性に対して理解を深めること。
- 生徒会役員以外の生徒からも意見を取り入れることが必要である。
- サポートルームを利用している児童の保護者向けのフォローや研修会などがあると良い。
- 保護者へ様々な情報を簡易的に伝えられるようになってほしい。

③ 障がい児福祉サービス事業所に必要なこと

- ある程度の時間をかけ、障がいに対する理解に関する講習を市が開催し、知識を身に付けてから業務を行ってほしい。
- 事業所だけで抱え込まず、市役所や行政に現状を伝える姿勢や行動をおこすこと。

④ 地域の人々に必要なこと

- 子どもの存在・意見を否定せずに、認めること。
- 障がいを抱える方の活動を目にする機会が増えると良いと思う。
- 施設だけでなく、地域で育てる・ともに暮らす・受け入れる・共生社会を作っていくことが必要である。
- 地域社会全体で子育てをしていくコミュニティーの形成。

⑤ 全ての機関・人々に必要なこと

- 気軽に相談できる体制づくり。ここに行けば、まず話を聞いてもらえると思えるところがたくさんあると良いと感じる。
- 課題について、自身の機関・施設のことだけではなく、地域の問題として捉えることが必要である。
- 意見や思いはあっても、意思表示が苦手な子どもが多いことから、積極的に意見を聞きにいく姿勢が大切である。

5.ヒアリング結果＜子どもの意見（町田の丘学園：生徒）＞

① いまの町田市はあなたにとって何点ですか？（100 点満点）

- 80 点。タバコ等のポイ捨てが駅前や狭い道等にある。
- 80 点。恩田川がきれい。たばこのポイ捨ては火事の原因になるのでやめてほしい。
- 85 点。町田駅に行けば大抵のものは購入できる。路線バスの車内が混雑しているため、本数を増やしてほしい。
- 90 点。発達支援のイベントや、障がい者スポーツ教室のプール等のイベントが嬉しく、楽しかった。18 歳以降も発達障がい者が通えるデイサービスができてほしい。救急車などが頻繁に出動しているため、消防署の出張所などを増やしてはどうかと思う。
- 60 点。車いすを使っていて、斜めになるところが多くある。入店時、階段はあってもスロープが無く、入れないことが多い。

② どんなことをしている時が、あなたにとって楽しい時間ですか？ 学校ではどんな時？お家ではどんな時？町中ではどんな時？

- 友達と話をしたり、授業の中で友達と協力し話し合いながら作業をする時間が楽しい。相手の考えも分かり、勉強になる。
  家では曲を聞く時が楽しい。
  街中には様々なお店があるので、ちょっとした時にコンビニなどがあって便利。
- 音楽、体育の時間が楽しい。
  家にいるときは、動画やテレビを見る。
  洋服や登山用品を買うことが好き。高尾山や奥多摩の山に登る。
- 一人で行動できる休み時間が好き。
  町田市のブックオフで掘り出し物を探したりする。
- 特設自立活動、体育、給食の授業が楽しい。
  家では、テレビを見ている時間や食事、お菓子を食べているとき。
  鉄道が好きで、小田急線を見ていることが楽しい。
- 給食の時間が好き。ジャージャー麺がおいしい。
  家に帰ったら学校の楽しかった事を一番に話すことが楽しい。
  お洒落な雑貨屋に入ると楽しい。

③ 町田市の中で気になることを教えてください。 町田市の「好き」なところは？町田市の「きらい」なところは？

- 移動支援を使っているが、一日に使える時間数が 18 歳からでないと増えない。また、以前は放課後等デイサービスを 25 日間利用できたのが、23 日間になった。
- 発達障がい児が通える特別支援学級が多くて良いと思う。
  多摩地域にも子ども関係の大型病院や医療センターができたら近隣住民も通いやすいと思うので、そのような病院ができたら良い。
- 家の近くにスーパーやコンビニ、病院があるのは便利。バリアフリー化を進めてほしい。
- 交通機関が整っており、違うところに行くにも便利。嫌いなところは、ごみのポイ捨てが多いこと。
- 好きなところはお店が多くあり、買い物後に買うものを忘れていたと気づいても遠くなく、すぐに買いに行ける。嫌いなところは、ポイ捨て。

④ あなたにとって「大人」はどう見えますか。町田市の大人の「良いところ」と「直してほしいところ」は？あなたはどんな「大人」になりたい？

- 心が広い大人になりたい。車いすの人に対して、今はなくなったが、嫌な顔をされる時がある。障がい者に対して、普通に接してほしい。
- 足が悪いが、他の人に対して、色々なことを手伝える大人になりたい。
- 特に障がい者に対して、配慮のある大人になりたい。町田市の大人にそこまで直して欲しいところはない。
- 人を助けることができる大人になりたい。医療従事者か山岳救助隊になりたい。
  町田市の大人の良いところは優しいところ。直してほしいところは、たまに横入りする人やマナーが悪い人。
- 優しく接し、積極的に動いていく大人になりたい。良いところは笑顔で接してくれる、道案内してくれること。

6.ヒアリング結果＜その他＞

① 複合化後の「子ども発達センター」に求めること

- 2028 年度以降に複合化される子ども発達センターに求めることとして、ハード面だけの充実だけでなく、各機関・機能がこれまで以上に連携する等ソフト面での充実が望まれている。
- 障がい児や発達に支援が必要と思われる子どもを対象とした医療的機能・体制を強化すべきである